

とうざん



有田町立有田小学校 校長 松尾 寛



平和祈念像

長崎で、じっくり学んできました！

先週の木曜日、金曜日に、6年生が長崎へ修学旅行に行ってきました。初日の途中まで雨でしたが、その後、2日目は晴れました。子ども達の日頃の行いの良さと担任の晴れ男のおかげで、平和と長崎の歴史や文化をじっくり学ぶことができました。7月の平和集会や社会科の歴史学習にいかします。



武雄温泉駅の新幹線改札口で満面の笑顔や乗車前の興奮、快適な車内でのくつろぎを見せる子ども達。

初日は、西九州新幹線で武雄温泉駅から長崎駅まで行きました。長崎に着き、原爆資料館を見学し、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さを知りました。平和集会は小雨のため、原子爆弾落下中心地では行わず、近くの自治公民館で行いました。幸運にも平和祈念像の前で集合写真を撮ることができました。



原爆資料館で資料映像に見入ったり、メモをしたり、友達と気づきを言ったりして、学び合う子ども達。



平和宣言をしたり、全校で作った千羽鶴をささげたり、リコーダーで「世界の約束」を演奏したりする子ども達

昼食も自治公民館でとり、その後、平和遺構めぐりのフィールドワークに班別で出発しました。子ども達は、事前に調べていた城山小学校、山里小学校、如己堂、浦上天主堂、山王神社などを巡りました。その間、子ども達は、原爆投下でかけがえのない多くの命が失われた事実に向き合いました。山里小学校では近代的な校舎に建て替えられた一方、今も残る防空壕や資料をじっくり見つめる子どももいました。防空壕の説明を読む子ども→



夕食後、平和学習会で被爆二世の田中重光さんから当時、4歳で爆心地から6km離れた所で被爆され体験談を聞きました。田中さんは、落下時、裏山に避難しているときに、大きな爆発音と台風よりも強い爆風に襲われたそうです。当時、一瞬にして焼け野原となった長崎の町を見て、子ども心に何が起こったかも分からず、ただただ、家族とともに生き延びるためにつらい生活を送ったそうです。現在は、被爆を伝えていく活動に参加し、核兵器廃絶に多くの市民とともに取り組まれています。



話を聞きながらメモや質問をしたり、感想を発表したりする子ども達と、貴重な体験談を話して下さった田中さん
子ども達の感想では、「戦争によって、人の命や町、心まで失われていくことが分かりました。これから、僕たちが平和な世界をめざして、自分の周りにいる友達や人たちを大切に、争いやいじめのない有田小学校にしていきます。」と発表していました。



出島資料館の貴重な展示物に見入ったり、目的地をめざして歩いたり、路面電車に乗ったりする子ども達

2日目は、出島をスタートにめがね橋、オランダ坂、グラバー園、大浦天主堂を巡りました。その間、路面電車に乗ったり歩いたりして、目的地をめざしました。初めて訪れた町ということもあり、途中で道に迷ったり通り過ぎたりしながら、班のメンバーと協力して辿り着いていました。途中、エネルギー補給のために長崎名物のチリンチリンアイスや豚の角煮饅頭、カステラなどを食べました。昼食は、新地中華街の中華店で円卓を囲んで面々に食べたり分け合ったりしました。中には、テイクアウトのお店で、名物のミルクセーキや肉饅頭、点心、サツマイモチップスなどを食べた班もありました。



チリンチリンアイスを味わったり、孔子廊の鯉に餌を与えたり、中華街を往復しながら昼食場所を決めたりする子ども達

今回の修学旅行で、6年生の子ども達は多くの人やもの、景色に触れ、実りある学習ができました。ご協力をいただいた保護者の皆様、旅行会社さん、有田町のバスの運転手さん、長崎の街の皆さん、本当にありがとうございました。